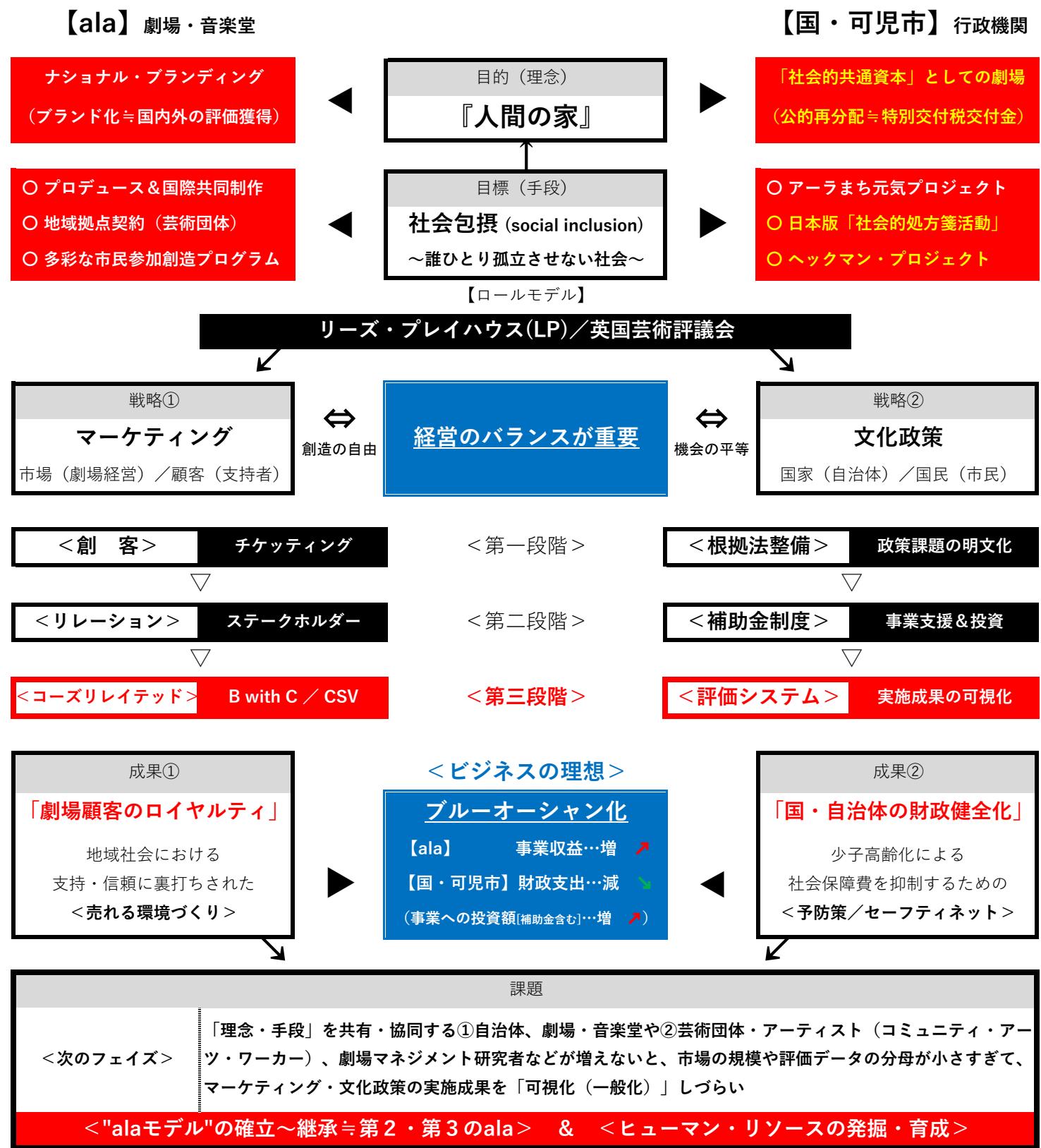


# “可児市文化創造センターala”のビジネスモデル (2020/05/18 栗田イメージ)



\* 次の指定管理期間5年間で「5館」（ala・丸亀含む）、その次の5年間で「15館」を目指す▶10～15年構想

○地域連携イメージ： 北海道・東北／関東／中部／近畿／中四国・九州の5ブロックに3館ずつ

\* "alaの経営モデル"を継承しつつ、それぞれの地域に立脚した人材・プログラム・アクティビティを▶目標設定の柔軟性・多様性

\* 「ピラミッド」ではなく「クラスター（葡萄の房）」、「トリクルダウン」でなく「サーキット」を▶公文協・劇音協との差別化

\* まずは「丸亀市（市直営型？）」開館へ向け、スタッフレベルで交流を本格化→地域連携のプロトタイプ▶経営手法のパッケージ化

\* 「あーとま塾」の（年間）インターンシップ導入による<経営人材&地域連携館の掘り起こし>▶全国規模のチームビルディング

\* 「人事交流」「国際共同制作」など重要なプロジェクトの推進は地域連携の枠を越えて共同・連携を▶人材活用の流動性確保